

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2272300969		
法人名	特定非営利活動法人 シンセア		
事業所名	グループホーム たみの里-日乃出町(ユニット①②)		
所在地	静岡県富士市日乃出町81		
自己評価作成日	平成23年12月5日	評価結果市町村受理日	平成24年2月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 aigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2272300969&SC

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階		
訪問調査日	平成23年12月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日本の季節行事を行ったり、外出を通して季節感を持っていただき、楽しんで1年を生活していただけるよう努めています。また、入居者の健康管理にも力を入れており、毎日の献立の栄養管理を行ったり、体重の増減から栄養状態を見たりして、体調の変化に留意しております。日常生活では、生きる励みになるようにと、ご本人の興味のあるアクティビティーの提供を個別に取り組んでいます。さらに、今年度から職員研修にも力を入れ、社内研修の充実を図り、職員の資質向上に努めるようにテキストの作成やカリキュラムの作成を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

健康で長生きしていただくために「食」「五感」運動」に尽力している事業所である。「食」は栄養バランスを見直し、練り製品は塩分が多いため控えるなどの改善を行うほか、食事写真もとって彩りや配分などについて話し合っている。また、食材と献立の管理や職員のアドバイスに取り組む食事委員もいる。「五感」については、行事計画を年間で作成して、月1回以上行事に取り組んでいる。中でも餅つき大会は近隣の皆さんと家族も集い賑わっている。「運動」は、散歩やレクなど日々の積み重ねを大切にしている、例えば職員が「365歩のマーチ」でのリズム運動を開発し提供している。これらのことが円滑に運用できるのも、業務分担と係担当における役割と責任が明瞭で、管理者ならびにケアマネジャーのフォローアップの賜物と受け止められ、5年間退去者が1名もないというもうなづける。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「生き生き生きる」を運営理念とし、管理者、職員はその理念を共有し、一丸となり取り組んでいる。	タイムリーな課題について職員共有の「今週の日標」に取り組んでいる。今週中に達成できない場合は次週に繰越、3週を越すと管理者が調整に入るようになっていて、これまでは職員のみで達成している。この積み重ねが理念の実現に繋がっていることが覗えた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	1月のどんど焼きや、廃品回収等、地区の行事には必ず参加させてもらい、交流を図っている。	町内会には加入していて、地域行事のお知らせももらっている。近所とは野菜をもらったり、その野菜でつくった惣菜を届けたりと双方向のやりとりがある。ソーメン大会や餅つき大会にも参加してもらえ、友好的な関係ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩時にも、近隣の方への挨拶は利用者と共に、時折 談話をして交流をしている。施設をオープンにしてどなたでもお出でいただけるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、サービスの実際や行事の報告を行い、家族や入居者と、市町職員とが意見交換し、サービスの向上に活かせるようにしている。	年度末には視写会を企画していて、家族の参加が増えるよう努めている。会議ではイベント会場の出入りに配慮してもらえたり、防災ラジオの情報ももらうなど、運営によりよく反映する内容となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	申請等必要な時はご本人様をお連れしたり、運営推進会議を通して意見交換をしている。日々ホームページをチェックし市町担当者と連絡を取り、協力関係を築くようにしている。	わからないことは相談し足しげく通うよう心がけていて、市役所でも担当職員が運営推進会議に毎回参加してくれる。常によくしてもらえ事業所は感謝していて、良好な関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の見守りや共有する時間を増やすよう心掛け、外に出ようとする方にもつき添えるよう努めている。夜間防犯上の施錠以外は一切の施錠はしていない。	夜間防犯上の施錠以外の施錠はしておらず、また向精神薬の起用も出来る限り控え、職員の工夫で対応している。ほかには、心理誘導も兼ね玄関にベンチとプランターの花を置いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は虐待防止のための研修などに参加する機会を持っている。また、全員が虐待に対してのあってはならない行為を理解してケアしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加したり、購読している本に情報があれば提供し、御家族から相談があれば対応できるよう心がけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用者の家族に十分な説明をして、疑問があれば納得のいくように説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「御意見箱」というものを設置し、御家族の方や外部の方の意見を取り込めるようにしている。運営推進会議や1年に1回家族へアンケートを行い、家族の意向や要望を収集し運営に活かすようにしている。	面会の家族には日頃の様子を伝え、会話をもつよう努めている。家族からは、掃除やアクティビティなど生活全般について忌憚のない意見がもらえていて、すみやかに改善している。また、月刊の笑顔通信に「今月の私」という欄を設けて家族へ個別に報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月各ユニットリーダーと管理者で会議を開き、現場の意見や問題などを討議している。月1回のミーティングや毎朝の申し送りに管理者が参加し施設の現状把握に努めており、個別の面接でも個々の意見の聞き取りができるようにしている。	職員が話し合い、入浴介助のマニュアルが完成している。「見ないと書けない」「書くと振り返りができる」	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度末に職員に向けて自己評価を行い、各自の意欲向上を促している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は事業所全体の委員会が発足し、職員のニーズに対応するように動いている。社内研修に力を入れており、新入職員の資質向上を目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	富士市内のグループホーム連絡会に参加し、研修や職場交換実習をするなどして、自らの施設を見直し、サービス向上に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時はこまめに声かけをし、その方の暮らしてこられたこれまでの様子を聞き取りケアに生かせるよう努力している。また、家族からも出来るだけ話を聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時はホームでの生活の様子などを家族に対して連絡をこまめにとり伝えるようにしている。要望や不安なことなど聞くようにし、改善できる事はすぐに対応し、不安の解消に努めとめている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時ご家族の施設に対して希望することなどを聞き、サービスに生かすよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者と食事の下ごしらえや、掃除のモップがけなど、職員と共に行い、作る時など、調理方法を教えてもらったり、普段の会話の中でもたくさんのかんことを教えてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者が家族との面会を希望している時は、すぐに家族と連絡をとり、面会してもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人、知人、なじみの方との面会はいつでもできるようにしている。	知り合いや友人の訪問もあり、家族の了解を得て受け入れている。職員が働きかけをすることで、縫物・編み物や書道など在宅からの趣味を続けている。また、学生時代の知り合いという利用者同士もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話を大切にしながら、時に職員が間に入り、共に会話を楽しんだり、仲を取り持つようにして、利用者同士の人間関係が円滑に行くように支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去してからも必要に応じて施設の行事に参加の呼びかけをしたり、その後の相談援助を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の会話の中で不安や悩み等の思いや希望などを見つけ、職員間で話し合っている。利用者の希望に添えるよう努めている。困難な場合は家族との連携を取り、意向にそえるよう努めている。	利用者の意向に添うようにケアプランに繋げ、また発語が難しい利用者の場合は家族の意向を主に汲み取っている。介護相談員の訪問が月1回あり、その情報も役だっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、利用者本人や家族からの情報収集を行い、アセスメントシートが作成されており、利用者の生活状況・身体状況の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体状況を把握するために、バイタル・食事量の定期的なチェックと観察を行っている。利用者のできる部分は利用者の力で出来るよう援助している。身体機能の維持のため、体操やレクリエーションの提供に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすための介護計画を本人や家族と話し合い作成している。職員がそれぞれの意見や情報を持ち寄り利用者にも即した介護計画を作成している。	カンファレンス表を用い、順次実施できるよう年間予定が組まれている。担当制になっているが、職員間のフィードバックが日常的にあるため、全職員で取り組む形ができています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個々の経過記録に一日の行動、心身の状態の変化、特記事項等を記入し、改善転倒があれば職員間で話し合いを行っている。月1回のミーティングではカンファレンスを行い介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況によりその都度検討され、実行後はそのサービスが適切であったか再度皆で話し合い、より良いサービスの提供ができるよう柔軟に対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要時であれば地域資源を活用し、利用者一人一人が楽しむことに協力して頂く。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の体調管理を行い受診状況等は家族と連絡を取り合い、安心して頂けるように努めている。	協力医院から週2回看護師の訪問があり、医師の指示が直接得られるため、スムーズな健康管理が叶っている。きめ細かな対応のため、在宅時のかかりつけ医から事業所の協力医に変更する利用者が多い。医療情報は個人ファイルに一元化し、有事に備えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回、訪問看護師に来て頂いている。日々の経過や気がついた点は直接、又は看護日誌に記録して状況を伝え、適切な処置が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際はホームでの提供に努め、利用者が不安にならない様徹底した治療を行うよう協力している。又、入院中は家族に安心して頂ける様、情報交換をしている。また利用者・家族と面会し退院が円滑に行くよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の今後の対応に対しては、家族と話し合い、意向を元に状況を把握しケアをするよう努めている。又主治医と話を重ね、家族と入居者を安心させ、チームで支援に取り組んでいる。	看取りの実績もあり、医療連携もとれている。家族の意向があれば取り組むが、家族の意向とともに職員の気持ちも大切に考えている。職員の気持ちの確認の機会を設けたり、夜勤者に管理者やケアマネージャーが宿直でつくといったフォローを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成して、急変時の対応にあたっている。また職員に落ち着いて対応してもらうため、応急手当や初期対応の訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回利用者とともに防災訓練を行っている。	近所の皆さんが日中時間がとれないため、本年は近隣のグループホームの協力を得て、近所の人の役で参加してもらった。地区の防災訓練にも職員と利用者として参加している。食糧だけでなく防寒具なども備蓄している。	地域住民の皆さんにも参加してもらえるよう、関わりをさらに進めることを期待する。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格を尊重し、言葉遣いやその時々合った言葉かけするようにしている。	新採教育など機会ある度に接遇の内部研修を行っている。「チャン」づけで呼ばないようにしているが、本人が要望したなら希望に添っている。職員の言動について管理者が気づいた場合は都度声掛けしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の利用者との会話や行動の中で、一人一人の思いや希望を表現出来るようにし、その希望を読み取り、出来る限り叶えられるように手伝いをするように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々一人一人のペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか希望も入れながら集団での生活を続けていけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容の提供や職員により髪のカットを行っている。起床時には気候に合った服装選びの手伝いをし、利用者によっては髪セットを行っている。利用者とお店に出かけ、一緒に服を選び購入することもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な作業を手伝ってもらっている。一汁三菜を目標に、味覚・視覚の両方で楽しめるように工夫している。	メニューは担当職員が季節を感じてもらえるよう手作りし、1汁3菜を基本としている。歯科衛生士の訪問が週1回あり、口腔ケアに力を入れていて美味しく食べることができるよう支援している。トレイの水ぶきを利用者も手伝っていることも視認した。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量、提示の水分摂取量を記録して増減や変化に気をつけている。食事委員やホーム長により献立表を点検し栄養バランスの見直しを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後出来る方にはやって頂き、介助が必要な方には自分ができる部分はやって頂き、出来ない方には職員が口腔ケアを行っている。希望により1週間に1度訪問歯科を受診する利用者もいる。週1回義歯の洗浄剤に浸し、清潔保持に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の排泄パターンを把握し、その人に合わせた時間誘導を実施するように努めている。オムツやパットの使用も一人ひとりの力を活かして必要のない時間帯は使わない。また使用量を減らしていく自立支援を行っている。	布パンツに戻ることを目標に、また家族の負担も考慮し、パットの当て方を工夫したり、誘導の時間帯を検討している。また、重度化が進んでいる利用者は、こまめに時間誘導することで自立に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を含む野菜等を献立に取り入れ、自然な排便を促すようにしている。また、水分摂取量を把握し、日中の散歩や体操を行うなどして対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の利用者個々の状態に合わせて、入浴順序を変えたり、介助の方法や器具の工夫をして安心して入浴できるようにしている。また入浴剤を使用したり音楽を流したり、湯の温度を一人ひとりの好みに合わせたりして、入浴を楽しみやすい環境作りを努めている。	希望があれば毎日入浴ができるが、体力や体調などを職員が検討し対応している。毎日入浴の希望者は現在5名いる。週2回かわり湯に取り組み、ワイン湯が利用者に好評である。また、脱衣所にBGMを流す工夫もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の習慣や体調によって、午後にお昼寝の時間があり天気の良い日には布団を干すなど心地よく休んで頂けるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ボードに利用者一人一人の飲み薬の名前や用法容量が明記されており安全で確実な服薬支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力に合わせて洗濯物たたみや食事の準備、後片付けなどの役割りを持ってもらっている。また、個々の時間や集団レクリエーションの時間においても、手芸やゲームなどして頂き楽しみごとを持ってもらうように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	気候や希望に合わせて日常的に近くの公園まで散歩に出ている。また、近所だけでなく、時には車で遠出したり、計画を立てて季節を楽しむような外出の機会を作ったりしている。また希望があれば可能な限り職員や家族が付き添って、買い物に出たり個人で戸外に出かける支援もしている。	春と秋に遠足を慣行していて、お花見や紅葉狩りで季節を堪能している。天候と体調がよければ近くの日乃出町公園まで散歩している。ボール遊びと鳩の餌やりが恒例で、鳩も電線に並んで待っていてくれる。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金が必要な場合は、施設が立替払いをするようにしており、基本的には個人で金銭を所持してはいるが、本人の希望でお金を使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の理解協力を得たうえで、利用者から希望があれば電話や手紙のやり取りはいつでも自由に行う事ができるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間においては光の強さや温度に注意して不快感の無いようにしている。また居間や廊下には作業活動で出来た季節ごとの壁飾りを展示している。居間からは台所の食事作りの様子やペランダの洗濯物がよく見え、生活感に溢れている。	毎朝の掃除で空気の入替えを定期的に行っている。掃除は利用者も一緒に取り組み、楽しみな日課の一つとなっている。また、共用空間にはアクティビティの作品が壁に飾られ、季節感を演出している。加湿器はフロアに2台あり、湿度計の設置もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中で独りになったり、気の合った利用者同士で過ごせるように席の配置を工夫したり、集まって寛ぎやすいようにテレビの前にソファスペースを設けたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に持ち込まれる家具は、自宅で使用していたものを持参して頂くようにしており、各自が使い勝手が良いように、好きなように部屋作りをしてもらっている。	ウレタンマットや畳などが導入されている居室もあり、個々の利用者のADLや気持ちに配慮していることが覗えた。どの居室もそれぞれで「その人らしく」という言葉がぴったりとしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差の解消や手すりの設置によって、利用者個々の歩行や移乗の力を安全に活かしてもらうように努めている。また、タンスの引き出しの中身がわかるように表示したり、各部屋の表札を付けたりにわかりやすく工夫をし、自立した生活への支援をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「生き生き生きる」の運営理念を職員は共有し、利用者一人一人の希望に沿ったケアを実践している。	タイムリーな課題について職員共有の「今週の日標」に取り組んでいる。今週中に達成できない場合は次週に繰越、3週を越すと管理者が調整に入るようになっていて、これまでは職員のみで達成している。この積み重ねが理念の実現に繋がっていることが覗えた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	天候の良い日に近所の公園へ外気浴に出掛け、公園でお会いする地域の方々との交流を深めたり、1月に行われる地域行事に参加して交流を図っている。	町内会には加入していて、地域行事のお知らせももらっている。近所とは野菜をもらったり、その野菜でつくった惣菜を届けたりと双方向のやりとりがある。ソーメン大会や餅つき大会にも参加してもらえ、友好的な関係ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩時に談話するなどして交流を図る中で地域の方々にも認知症への理解をして頂けるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、意見交換をするようにしており、市町への質問などが出ると、その日のうちに調べて返答をいただいたり、貴重な情報交換の場となっている。	年度末には視写会を企画していて、家族の参加が増えるよう努めている。会議ではイベント会場の出入りに配慮してもらえたり、防災ラジオの情報ももらうなど、運営によりよく反映する内容となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	申請等必要な時はご本人様をお連れしたり、運営推進会議を通して意見交換をしている。	わからないことは相談し足しげく通うよう心がけていて、市役所でも担当職員が運営推進会議に毎回参加してくれる。常によくしてもらえ事業所は感謝していて、良好な関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止宣言書を掲げ、職員全員が理解し、夜間防犯上の施錠以外は一切の施錠はしていない。	夜間防犯上の施錠以外の施錠はしておらず、また向精神薬の起用も出来る限り控え、職員の工夫で対応している。ほかには、心理誘導も兼ね玄関にベンチとプランターの花を置いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が理解した上でケアに取り組んでいる。職員同士が利用者へのケアの方法を意見交換することで、虐待防止の徹底を図っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加したり、購読している本に情報があれば提供し、御家族から相談があれば対応できるよう心がけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用者の家族に十分な説明をして、疑問があれば納得のいくように説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「御意見箱」というものを設置し、御家族の方や外部の方の意見を取り込めるようにしている。	面会の家族には日頃の様子を伝え、会話をもつよう努めている。家族からは、掃除やアクティビティなど生活全般について忌憚のない意見がもらえていて、すみやかに改善している。また、月刊の笑顔通信に「今月の私」という欄を設けて家族へ個別に報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月各ユニットリーダーと管理者で会議を開き、現場の意見や問題などを討議している。	職員が話し合い、入浴介助のマニュアルが完成している。「見ないと書けない」「書くと振り返りができる」	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度末に職員に向けて自己評価を行い、各自の意欲向上を促している。また、委員会活動を通し業務に責任を持ち自らが働きやすくなるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は事業所全体の委員会が発足し、職員のニーズに対応するように動いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	富士市内のグループホーム連絡会に参加し、研修や職場交換実習をするなどして、自らの施設を見直し、サービス向上に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時はこまめに声かけをし、ご家族からその方の暮らしてこられたこれまでの生活習慣や様子を聞き取り、ご本人の要望も踏まえて、ケアに生かせるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時は家族に対して連絡をこまめにとり、施設での生活の様子などを伝えて、安心していただけるように努めている。また、要望や不安なことなど聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時ご家族の施設に対して希望することなどを聞き、サービスに生かすよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者と食事を作る時など、調理方法を教えてもらったり、普段の会話の中でもたくさんのことを教えてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者が家族との面会を希望している時は、すぐに家族と連絡をとり、面会してもらっている。施設だけでは解決できないことなど、ご家族にも協力をして頂き解決をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の大切にしてきた人間関係を大事にして、利用者の友人、知人、なじみの方との面会はいつでもできるようにしている。	知り合いや友人の訪問もあり、家族の了解を得て受け入れている。職員が働きかけをすることで、縫物・編み物や書道など在宅からの趣味を続けている。また、学生時代の知り合いという利用者同士もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人の性質に合わせた対応を心掛け、食後の食器拭きや、レクリエーションの時などにも、利用者同士が関わり合いのできるよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移られた方を皆で訪問して昼食を取ったりするなどして、必要に応じて、その家族の相談に応じるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の会話の中で不安や悩み等の思いや希望などを見つけ、職員間で話し合っている。利用者の希望に添えるよう努めている。困難な場合は家族との連携を取り、意向にそえるよう努めている。	利用者の意向に添うようにケアプランに繋げ、また発語が難しい利用者の場合は家族の意向を主に汲み取っている。介護相談員の訪問が月1回あり、その情報も役だっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、利用者本人や家族からの情報収集を行い、アセスメントシートが作成されており、利用者の生活状況・身体状況の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体状況を把握するために、バイタル・食事量の定期的なチェックと観察を行っている。利用者のできる部分は利用者の力で出来るよう援助している。身体機能の維持のため、体操やレクリエーションの提供に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にミーティングやカンファレンスで、利用者が暮らしやすいよう職員間で課題とケアのあり方について話し合い、家族や関係者からの情報収集も行った後、可能な限り利用者や家族の意向に添ったケアに生かしている。	カンファレンス表を用い、順次実施できるよう年間予定が組まれている。担当制になっているが、職員間のフィードバックが日常的にあるため、全職員で取り組む形ができています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の生活状況や心理的变化、身体状況等ありのままを経過記録として記入している。経過記録は職員間で共有されており、対応が一貫して行われるようにしている。また、情報交換により実践に反映されるよう努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況の変化により、その都度検討され、実行後はそのサービスが適切であったか再度皆で話し合い、より良いサービスの提供ができるよう柔軟に対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要時であれば地域資源を活用し、利用者一人一人が楽しむことに協力して頂く。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週2回提携医より看護師が来所し、利用者の体調管理を行っている。受診状況等は家族と連絡を取り合い、安心して頂けるように努めている。	協力医院から週2回看護師の訪問があり、医師の指示が直接得られるため、スムーズな健康管理が叶っている。きめ細かな対応のため、在宅時のかかりつけ医から事業所の協力医に変更する利用者が多い。医療情報は個人ファイルに一元化し、有事に備えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護日誌を作成して、利用者の日常の関わりで気づいた事を書き、対応を相談するなどして、職員と看護師の間の情報交換に利用している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際はホームでの提供に努め、利用者が不安にならない様徹底した治療を行うよう協力している。又、入院中は家族に安心して頂ける様、情報交換をしている。また利用者・家族と面会し退院が円滑に行くよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の今後の対応に対しては、家族と話し合い、意向を元に状況を把握しケアをするよう努めている。又主治医と話を重ね、家族と入居者を安心させ、チームで支援に取り組んでいる。	看取りの実績もあり、医療連携もとれている。家族の意向があれば取り組むが、家族の意向とともに職員の気持ちも大切に考えている。職員の気持ちの確認の機会を設けたり、夜勤者に管理者やケアマネージャーが宿直でつくといったフォローを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成して、急変時の対応にあたっている。また職員に落ち着いて対応してもらうため、応急手当や初期対応の訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者の安全を第一に考慮し防災訓練を行っています。色々工夫し、いかに安全かを考え、避難誘導を全職員で行っています。その際近隣の方にも声掛けをしています。	近所の皆さんが日中時間がとれないため、本年は近隣のグループホームの協力を得て、近所の人の役で参加してもらった。地区の防災訓練にも職員と利用者どで参加している。食糧だけでなく防寒具なども備蓄している。	地域住民の皆さんにも参加してもらえるよう、関わりをさらに進めることを期待する。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格を尊重し、言葉遣いやその時々合った言葉かけするようにしている。	新採教育など機会ある度に接遇の内部研修を行っている。「チャン」づけで呼ばないようにしているが、本人が要望したなら希望に添っている。職員の言動について管理者が気づいた場合は都度声掛けしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の利用者との会話や行動の中で、一人一人の思いや希望を表現出来るようにし、その希望を読み取り、出来る限り叶えられるように手伝いをするように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人のその日の過ごしやすー一日作りを目指して、やりたい事やしたい事を自由に出来るように可能な限りは希望に添えるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容の提供や職員により髪のカットを行っている。起床時には気候に合った服装選びの手伝いをし、利用者によっては髪セットを行っている。利用者とお店に出かけ、一緒に服を選び購入することもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立をたてる時には、利用者と一緒に話し、何が食べたいかを聞き、食事が楽しみになるように努めている。毎食の残食により、好みを読みとり喜ばれる献立になるよう努めている。食事の準備や片付けの時は、一人一人に出来ることは手伝っていただくようにしている。食事は職員も一緒に食べ楽しみな時間になるように努めている。	メニューは担当職員が季節を感じてもらえるよう手作りし、1汁3菜を基本としている。歯科衛生士の訪問が週1回あり、口腔ケアに力を入れていて美味しく食べることができるよう支援している。トレイの水ぶぎを利用者も手伝っていることも視認した。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事委員やホーム長により献立表を点検し栄養バランスの見直しを行っている。食事量と水分摂取が一日を通じて確保出来たかを日誌に記入し利用者の状態の判断材料としている。お茶が飲めない方には寒天にするようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後出来る方にはやって頂き、介助が必要な方には自分ができる部分はやって頂き、出来ない方には職員が口腔ケアを行っている。希望により1週間に1度訪問歯科を受診する利用者もいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人一人の排泄パターンを把握し、その方に合わせた時間誘導を実施する事で、失敗のない排泄ができるように努めている。オムツやパットの使用も一人ひとりの力を活かして必要のない時間帯は使わない。また使用量を減らしていく自立支援を行っている。	布パンツに戻ることを目標に、また家族の負担も考慮し、パットの当て方を工夫したり、誘導の時間帯を検討している。また、重度化が進んでいる利用者は、こまめに時間誘導することで自立に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分不足や運動不足からくる便秘予防の為に水分摂取の機会を充分にとったり、毎日体操をしたりしている。又栄養士によるアドバイスの元、献立を考えたり毎朝牛乳を提供したりしている。なお必要な方には排泄チェック表で排便量を把握し、薬を調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の利用者個々の状態に合わせて、入浴順序を変えたり、介助の方法や器具の工夫をして安心して入浴できるようにしている。また入浴剤を使用したり音楽を流したり、湯の温度を一人ひとりの好みに合わせたりして、入浴を楽しみやすい環境作りにも努めている。	希望があれば毎日入浴ができるが、体力や体調などを職員が検討し対応している。毎日入浴の希望者は現在5名いる。週2回かわり湯に取り組み、ワイン湯が利用者に好評である。また、脱衣所にBGMを流す工夫もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の習慣や体調によって、午後にお昼寝の時間があり天気の良い日には布団を干すなど心地よく休んで頂けるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の個々のファイルの中に薬剤情報があり、職員はいつでも閲覧することができる。また変化があった時には、看護日誌に記録することで医師に情報が伝わるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力に合わせて洗濯物たたみや食事の準備、後片付けなどの役割りを持ってもらっている。また、個々の時間や集団レクリエーションの時間においても、手芸やゲームなどして頂き楽しみごとを持ってもらうように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候や希望に合わせて日常的に近くの公園まで散歩に出ている。また、近所だけでなく、時には車で遠出したり、計画を立てて季節を楽しむような外出の機会を作ったりしている。また希望があれば可能な限り職員や家族が付き添って、買い物に出たり個人で戸外に出かける支援もしている。	春と秋に遠足を慣行していて、お花見や紅葉狩りで季節を堪能している。天候と体調がよければ近くの日乃出町公園まで散歩している。ボール遊びと鳩の餌やりが恒例で、鳩も電線に並んで待っていてくれる。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル回避のため高額な所持金を管理することはないが、買物を自由にする楽しみを持ってもらうように自己管理できる方には金銭を所持してもらい、職員と買い物に出た時に嗜好品を購入してもらったり、遠足などの外出時にお土産を購入してもらったりして、本人の希望でお金を使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望に応じていつでも使用していただけるようにしている。手紙も頂いた物のお礼などを書いて出す支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間においては光の強さや温度に注意して不快感の無いようにしている。また居間や廊下には作業活動で出来た季節ごとの壁飾りや、福祉展への出品作品などを展示している。また、外出した際の写真なども貼り、居間からは台所の食事作りの様子やベランダの洗濯物がよく見え、生活感に溢れている。	毎朝の掃除で空気の入替えを定期的に行っている。掃除は利用者も一緒に取り組み、楽しみな日課の一つとなっている。また、共用空間にはアクティビティの作品が壁に飾られ、季節感を演出している。加湿器はフロアに2台あり、湿度計の設置もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中で独りになったり、気の合った利用者同士で過ごせるように席の配置を工夫したり、集まって寛ぎやすいようにテレビの前にソファスペースを設けたりしている。また、テーブルの設置に工夫をし、気のあった利用者同士がテレビを見て会話のできるように工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に持ち込まれる家具は、自宅で使用していたものを持参して頂くようにしており、各自が使い勝手が良いように、好きなように部屋作りをしてもらっている。	ウレタンマットや畳などが導入されている居室もあり、個々の利用者のADLや気持ちに配慮していることが覗えた。どの居室もそれぞれで「その人らしく」という言葉がぴったりとしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差の解消や手すりの設置によって、利用者個々の歩行や移乗の力を安全に活かしてもらうように努めている。また、タンスの引き出しの中身がわかるように表示したり、各部屋の表札を付けたりしてわかりやすく工夫をし、自立した生活への支援をしている。		